八ヶ岳の秘密基地

～木材の活用法・性能を見て触れて学ぶ場～

厚さ30㎜の天然乾燥のスギ床板。屋外は赤身・節、室内は源平・無節と適材適所に使い分け。梁背を抑えたヒノキの梁が空間をすっきり見せる

厚さ20㎜の焼スギ板外壁とスギ CLT を使った２方向跳ね出し階段。屋外暴露試験中

木の空間の空気感・素材感や居心地の良さは、長時間の滞在や宿泊をすることにより得られると考えてつくった、設計事務所の宿泊体験型モデルハウス兼セミナーハウスである。

「色艶のよい天然乾燥の柱・梁や板材」、「躯体を製材した後の端材を大量に使う木摺下地のしっくい壁・天井」、「都市部の防火規制にも対応可能な手焼きの焼杉板外壁」、「防汚・防水のための拭き漆・柿渋塗り仕上げ」など、現在の短工期・大量生産・大量消費の仕組みからは外れた素材・工法を、今一度、現代の目線で見直し、再評価して使うことにした。いつもより少し時間と手間をかければ、同じ材料がこれまで以上に魅力的になることを多くの人に気付いてほしいからである。

木材はそれぞれの産地に出向き、長所短所を理解した上で、適材適所に使い分けた。柱・はりは、奈良・吉野の製材所にて1年以上、天然乾燥されたスギ・ヒノキを用い、特に山で大きく育ってきたヒノキを積極的に梁に活用した。また、階段や家具のクリ・ヤマザクラは、福島・南会津の製材所にて、自ら丸太買いし、賃挽き製材後、5年以上桟積み乾燥し使用した。

さらに、外壁の焼スギ板は、現場にてワークショップ形式で三角筒焼きをして、木材は火に弱いとの思い込みを解消するための学びの場とした。

「木」の復権・活用には、現代版の「木」と「火」のいい関係を学ぶことが重要と考えている。八ヶ岳の秘密基地は、「木育」と「火育」を同時に実践できる場である。

1階はヒノキ柱・はり、2階はスギ柱・はり。1年以上寝かした天然乾燥材。クリの階段がアクセントになっている

焼スギ板づくりで「火育」+「木育」

約3㎜の炭をそのまま残した陰影のある外壁

施工者と設計者が製材所で柱・梁に番付をふる

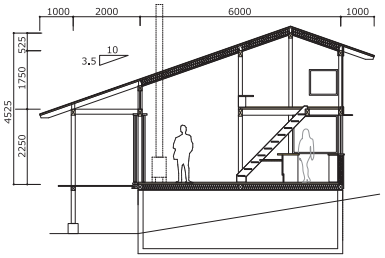
クリを丸太買いし賃挽き製材後5年以上天然乾燥

離れは東京で仮組みしユニット施工。3日間で完成

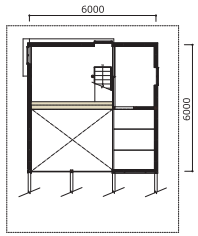
丸太買いしたヤマザクラを拭き漆仕上げしたテーブル

スギ木摺をパネル化し漆喰塗りの下地に

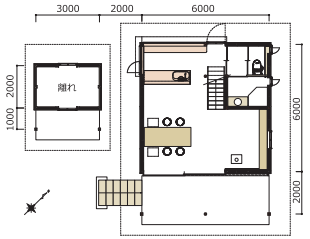
防災拠点となるよう電気・ガス・水道を自給自足



断面図 no scale



２階平面図



１階平面図 no scale